

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	1Q
科目群	事業アーキテクチャ科目群	科目名	経営戦略特論			教員名	板倉 宏昭 三好 祐輔
		(英文表記)	Corporate Strategy				

概要	経営学・経営戦略論を学ぶうえで、必要と考える考え方を解説し、基本的理解に重点を置く。経営に関する基本概念のうち、市場、組織及び地域を巡る基本的な考え方を中心にまとめる。公判では経済的アプローチを用いて講師の米国ビジネススクールの経験を踏まえて、MBA での伝統的な考え方と対比しながら、展開するように心がける。事例を取り入れながら客観的に解説し、現実の社会において経営学・経営戦略論が果たす機能を具体的に理解する。			
目的・狙い	この授業では、ビジネスに関する基本的な概念を理解し、経営に関する関心を深める。また、実証分析に関する方法を学ぶ。経営学と経営戦略論に関わる基本的な考え方を検討することで、これらの理論が、経営実務においてどのように有効か、妥当かを、自分の実務に照らして検証する。 修得できる知識単位: (A2) K-07-17-01 情報システム戦略(レベル3) システム化構想、システム化基本方針、全体開発スケジュール (A2) K-08-19-01 経営戦略手法 (レベル4) 競争戦略、差別化戦略、コアコンピタンス、M&A、企業理念 (A2) K-08-19-03 ビジネス戦略と目標・評価 (レベル4) ビジネス戦略立案、ビジネス環境分析、ニーズ・ウォンツ分析、競合分析、PEST 分析、戦略目標、CSF、KPI、KGI、バランススコアカード (A2) K-08-19-04 経営管理システム (レベル3) CRM、SCM、ERP、意思決定支援 (A3) K-09-22-01: 経営・組織論 (レベル4) 経営組織、CI、コーポレートガバナンス、ヒューマンリソース			
前提知識 (履修条件)	・特になし。 ・ケース討議には、積極的な取り組みが求められる。			
到達目標	上位到達目標			
	・企業経営と経営戦略に関して説明できる。 ・企業経営と経営戦略が果たす機能を具体的に理解する。 ・事例について、経営戦略の基本的な考え方を使って、企業戦略や事業戦略の策定や実証分析を行うことができる。			
	最低到達目標			
	・経営戦略への関心を深める。 ・企業経営と経営戦略に関する基本的な概念を理解し、説明できる。 ・実証分析に関する方法を理解する。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		—	
	対面 授業	講義（双方向）	○	毎回のテーマに関する講義と討議
		実習・演習（個人）	—	
		実習・演習（グループ）	—	
	サテライト開講授業		—	
その他		—		
授業外の学習	・予習：教科書を読む。教科書の問題集とケースを事前に解くことが望ましい。 ・復習：学んだ部分を中心に、教科書、教科書の問題集、ケースを読み返す。			
授業の内容	・企業経営・事業展開で必要とされる経営戦略の基本的理論構成とその体系、経営思想、経営計画、事業戦略構築、組織戦略等を学ぶ。また、経営・事業の戦略の構築・実行・評価のための枠組み・手法を修得する。 ・教科書を用いた解説、問題演習、ケース討議の順番で進める。 ・ケースは、教科書のショートケースを中心とする。グループで討議し、発表する。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	オリエンテーション、授業の進め方、 経済学の基本視点、経済学の意義（需要曲線、供給曲線、市場均衡、死荷重、超過 利潤という観点から、企業の経営戦略）を説明してゆく。企業活動に焦点を置いた 供給サイドに関する経済学の講義を主に行なう。	—	対面
	第 2 回	この講義では、企業の経営戦略について考察する前に、経済学では基礎となる需要 と供給及び余剰分析に関わる基礎的な知識の習得を目指す。	—	対面
	第 3 回	この講義では、競争市場における企業の経営戦略について、経済学の観点から説明 できるようになることを目標とする。特に、利潤最大化と完全競争企業の供給曲線 に関わる知識の習得を目指す。	—	対面
	第 4 回	この講義では、独占市場における企業の経営戦略について、独占と競争の比較を通 して説明できるようになることを目標とする。特に、利潤最大化と価格差別、参入 障壁に関わる知識の習得を目指す。時間的余裕があれば、独占に対する公共政策に ついて触れる予定である。	—	対面
	第 5 回	この講義では、不完全競争市場における企業の経営戦略について、不完全競争の例 の一つである独占的競争に関わる知識の習得を目指す。時間的余裕があれば、広告 をめぐる論争についても触れる予定である。	—	対面
	第 6 回	この講義では、前の講義に引き続き、不完全競争の例の一つである寡占、複占に関 わる知識の習得を目指す。また、経営戦略を考えるにおいて必要となるゲーム理論 の基礎を解説する。	—	対面
	第 7 回	講義の前半で扱ったポイントを総括する。	—	対面
	第 8 回	中間試験	—	対面
	第 9 回	経営の基本視点、経営学の意義（経営学の定義、企業活動と経営学・経営戦略）米 国の経営学・経営戦略論の流れ、経営学の性質、経営学上の人間観	—	対面
	第 10 回	企業の目標（利潤最大化説、複数目的説、ステークホルダー志向）、経営の基本戦 略、競争優位性、競争優位の源泉、理念・ビジョン、経営戦略の構造、戦略の策定 ・上記に関するケース討議（キヤノン）	—	対面
	第 11 回	・環境と経営戦略、市場セグメンテーション、リソース・バースト・ビュー、コー ポレート・ガバナンス、経営責任、企業の社会的責任、経営学のデザイン志向、資 本コスト、WACC、MM 定理	—	対面
	第 12 回	・分析の手法、マクロ環境分析、業界分析、SWOT 分析、プロダクト・ポートフォリ オ・マネジメント（PPM）、差別化 ・上記に関するケース討議（冷凍食品業界）	—	対面
	第 13 回	競争優位の源泉である市場に関する考え方を扱う。PIMS 研究、市場構造と経営（市 場構造の種類、参入障壁と差別化、独占市場、寡占市場、独占的競争市場、完全競 争市場）	—	対面
	第 14 回	コスト・リーダーシップ戦略（規模の経済、規模の経済の源泉、規模の経済の限界、 範囲の経済、経験や学習による優位、デファクトスタンダード、スイッチングコス ト市場とロックイン）、市場による競争優位に対する戦略、ブランド 上記に関するケース討議（鉄鋼業界）	—	対面
	第 15 回	経営戦略のまとめ	—	対面
	試験	教科書にある問題をよく復習しておくこと。	—	対面
成績評価	グループレポート・発表 15%、個人レポート 25%、筆記試験 50%、授業への貢献度 10% ※グループレポート・発表の評価は、原則としてグループ内のメンバーで同じ評価とする。 ※授業への貢献度は、単なる出席点ではない。			
教科書・教材	板倉宏昭『新訂 経営学講義』勁草書房 2017 年			
参考図書	Porter, M. E., Competitive Strategy, The Free Press, 1980 (土岐他訳『競争の戦略』ダイヤモンド社, 1982) Barney, J. B., "Is Sustained Competitive Advantage Still Possible in the New Economy?", 2001(岡田監訳「リソース・バース ト・ビュー」『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』May, 2005, 78-87 頁) 板倉宏昭, ケースブック地方発企業の挑戦, 税務経理協会, 2005 板倉宏昭他. ネットワークが生み出す地域力, 白桃書房, 2008 Alexander Osterwalder & Yves Pigneur, Business Model Generation -A Handbook for Visionaries, Game Changers, and Challengers, Wiley, 2010 (小山龍介訳『ビジネスモデルジェネレーションービジネスモデル設計書』翔泳社, 2012)			